

巻 頭 言

美的場正美

発行がおくれたこととお詫び申し上げます。

2003年3月に『中等教育研究センター紀要』第3号(1)(2)の2巻が公刊され、2004年3月付けで『中等教育研究センター紀要』第4号が公刊された。1年の間において、第5号と第6号の合併号を、2006年3月に発行することができました。発行が1年遅れたことをまずお詫びいたします。その大きな第1の原因は、編集長・中等教育研究センター長であった私の怠慢です。3本の論文は2004年12月までには既に入稿されていました。本来ならば、2005年3月に公表すべきでしたが、これを先延ばしにした編集長の怠慢に原因があります。再度、関係者にお詫び申し上げます。第2の遠因は、大学の法人化に伴い、組織も、経理も2004年度から新しいものとなったことにあります。2003年度に執行すべき紀要の費用を2004年度当初に支出いたしました。2004年の中等教育研究センターの予算の8割以上を第4号の発行と郵送費に当てることになり、対策が必要になりました。2005年内に第5号を発行し、2005年度末2006年3月に第6号を発行することも考えましたが、第6号の原稿の集まりが少なく、2005年度に合併号を発行することを決意いたしました。

英文要約と引用・参考文献のスタイル

第5号より紀要論文には、英語の要約を掲載しました。中等教育研究センターに担わされている役割の1つは、環太平洋における中等教育研究の中心として研究を推進し、世界にその情報を発信していくことです。中等教育研究センターを環太平洋における中等教育研究の中心として、内外とも認知をし、位置づけていく道りは長いものになりそうですが、まずは、中等教育研究センターに関わる研究者、教育者、実践家の情報を収集し、それを環太平洋の国々の人々に発信することが、地道な活動です。日本語で執筆された論文の英文による要約を掲載しました。それを読んだ環太平洋の中等教育に関わる人々が私たちの活動の一端を理解してくださることを願っています。英文は、本大学への外国人研究員であるDr. Sarkar Arani Mohammad Reza氏が、イギリス、アメリカの知人を通して、チェックをしてくださいました。この場を借りて感謝申し上げます。

論文の形式は、整いつつありますが、本号では引用・参考文献のスタイルの統一ができていません。また、審査制度を導入することが、『中等教育研究センター紀要』に馴染むかどうかの論議も始まっていません。検討すべき課題が残されています。

掲載論文について

サマースクールの活動やシンポジウムなどの特集が組まれていたこれまでの号と比較して、本号に掲載された論文は、個別論文が多い。その中でも、大学の教員と大学院学生の共同研究があることは、よい傾向であると思います。大学院学生が大学の教員のプロジェクトに参加し、その参加の

過程で研究のスキルや基本的態度を習得できる可能性があるからです。今津・田川論文は、第4号に続く、中学生および高校生の友人コミュニケーションに関する共同研究です。若者論が展開されている現代において、実証的なデータを生み出している点をまず評価したいと思います。研究仮説、先行研究の分析、調査の概要と手順、データの整理、考察という研究の形式的な側面が整った論文でもあります。

的場・サルカール アラニ、他論文は、大学院での演習の成果です。日本の授業研究を基礎とした校内研修がアメリカで注目され、Lesson Studyとしてアメリカで実践と研究がなされています。現在3つの大きな研究集団がありますが、1つのグループの授業研究に関する研究論文です。

第2の特徴は、大学の教員と中等教育の教員および大学院学生との共同研究がなされていることです。大嶽・石田・山田・石川・吉田論文は、名古屋大学教育学部附属高等学校の生徒に対する質問紙調査にもとづいて、内部進学者と外部進学者の交流過程を分析したものです。

第3の特徴は、日本語を母語としない研究者の論文が掲載されていることです。千論文は、博士論文の基礎となった研究で、小学校の教師に対するインタビュー調査を通して、教師の地域観を分析した論文です。Crawford論文は、2004年12月9日に名古屋大学において開催された第1回国際シンポジウム「授業研究を基礎とした校内研修」で報告された内容と質疑討論です。論文の形式をとっていません。このシンポジウムは、2日亘って開催され、日本（的場正美）、中国（高 峽）、イラン（Sarkar Arani Mohammad Reza）、ドイツ（FFriedrich Gerve）のイギリス（Keith Crawford）の授業研究について報告があり、その後、パネルディスカッションがなされました。2日目には岡崎市立夏山小学校において実施された授業研究の参加と討論がなされました。

2006年3月